

日本語を話すラスベガスの弁護士 Attorney at Law

スコット・ラスムーセン 弁護士
R. Scott Rasumussen ESQ.

米国ネバダ州・ハワイ州弁護士
言語：英語と日本語

Bar Admissions: Nevada 1996 / Hawaii 1996
Language: English and Japanese

学歴
ネバダ大学ラスベガス校ゲーミング法・規制 法学修士
ネバダ州最高裁判所認定仲裁人
ワシントン大学 法学博士
ワシントン大学 日本語・日本文学修士
メリーランド大学 東アジア研究文学士

Education
LLM, Gaming Law and Regulation UNLV, NV 2018
Nevada Arbitrator Nevada Supreme Court, 2016:
JD, Washington Univ. St. Louis, MO 1994:
MA, Washington Univ. St. Louis MO 1994:
BA, East Asian Studies Univ. of MD 1991:

連絡先
rsasmussen@murchisonlaw.com
702-216-3668
www.murchisonlaw.com



▼ニホンゴを話す弁護士

「ワタシのニホンゴがわからなければ、どうぞ、エイゴで、もう一回、いつてくださーい」

サマリンの Tivoli Village にあるオフィスで初めてお会いしたスコット・ラスムーセン弁護士は、日本語でご挨拶、そう前置きをされ、インタビュアーが始めました。弁護士さんとお会いするというのは少し緊張します。背が高く、大きな体のスコットさん（気さくさが伝わるように、あえてこう呼ばせていただきます）は、日本に住んでいたことがあり、日本語が話せるので、インタビュアーはすべて日本語の会話となりました。私の完璧ではない英語が大抵の心あるアメリカ人には理解してもらえよう、英語のアクセントがあるスコットさんの日本語は、時々、助詞の使い方などを言い間違えても、容易に言い換えることが伝わる、という感じでした。

Q: 大学で日本語の勉強をされたという感じが伝わりますか？
A: そうですね。ワタシは、あの、教会のために、宣教師でした。教会の指導者の判断です。ワタシが決めたことではありませんでした。それは、1985年から87年まで。だから、2年間、日本に住んでいました。鳥取市鳥取県岡山市岡山区、そして下関市山口県、山陰山陽の地方ね、そういうところに住んでいました。

Q: モルモン教ですか？
A: そう、モルモン教です。スコット：モルモン教という（末日聖徒イエス・キリスト教会）というのが、ホントの名前です。最初に鳥取だったので、鳥取がよくなりました。ナー」と言う、ありがとう、は「ダンダン」。こんばんは、というの、は「バンナリマシタ」と言う、日本の他にも、台湾、韓国、フィリピン、アメリカなど、いろいろ行きました。

Q: としてアメリカに戻ってきたから大学に？
A: はい。プロボ市ユタ州のほうで、Scott: はい。Brigham Young 大学でした。宣教師訓練センターがあります。だから、私はそこで先生として過ごしました。仕事でした。まあ大学生でしたけど、アルバイトみたくでした。

Q: として日本語を教えるいらしたんですね？
A: はい。新しい宣教師たちに、「はい、これは日本語です」「コレハ、ペン、デス」「はい、リビート」「はい、コレハ、ペン、デス」という雰囲気だった（笑）
Q: なるほど。
A: Scott: ゴメンナサイ。（笑）
スコットさんとの会話は、こういう感じで進みました。

▼弁護士への道

アメリカに戻ってからは、スコットさんはユタのブリガム・ヤング大学で自ら学びつつ日本語を教えていたが、その後メリーランド大学で東アジア研究をします。その時、大学で日本語が話せる

学生はスコットさんだけだったそう。その大学を選んだ理由は、同じブリガム・ヤング大学を卒業した奥さんの仕事の赴任先がメリーランドだったからだと教えてくれました。ワシントンDCとボルティモアの近くで暮らし、東アジアの研究と日本語を学び、政府のインテリゲンシアもしていたといっています。

スコットさんは、メリーランド大学卒業後、ミズーリー州にあるセントルイス・ワシントン大学の大学院で法律を学びます。なぜ、弁護士を目指したのかを問うと、教会に関わりながら成長して行く過程で、周りに弁護士をしていく人たちがいて、法律の話を聞く機会が多かったことが影響したそうです。また、会計士の父親が弁護士を目指すということに賛成してくれたといいますが、祖父は牧場で牛や七面鳥を育てる農夫だったので、肉体的労働は大変な仕事だと思っただけです。

スコットさんの名前の最初の R は実はフアーストネームのロバートの R。父親と同じ名前なので、ミドルネームのスコットを通称としていたのだそうです。スコットさんはデンマークからの移民6世。ラストネームの RASUMUSSEN は SEN の部分で、デンマーク人の名前とわかるそうです。RASUMUSSEN と綴られていたらルウエイカスウエーデンの人ということに、ちなみに SEN は Son（息子）なので、お名前はラスムスの息子（Son of Rasmus）という意味だそうです。

大学院で法律の勉強をしつつ、ダブルメジャーとして、スコットさんは日本語の勉強も続けました。日本の歴史、古典も含む日本文学を学び、日本語の新聞なども読みこなしていたそうです。「難しかった」といいます。日本で暮らし、日本が好きになっていったスコットさん。日米の貿易摩擦の時代に両国で生活したこともあり、日本語が使える弁護士を目指していたことがわかります。

▼ラスベガスの弁護士

今や、日本企業のゲーミングライセンス取得や、企業法務、訴訟に強い弁護士として多くのクライアントの信頼を集めるスコットさんは、数々の経験を積んだベテラン弁護士ですが、ワシントン大学を卒業し法学博士となり、司法試験を受け、晴れて弁護士となったのは1996年です。大学を卒業した当初は日系企業が多いカリフォルニアで仕事をすることも考えていたようですが、義理の父の家があるハワイ州とラスベガスのあるネバダ州のライセンズを得ます。ラスベガス・ストリップのホテルが新しい時代へと大きく変化をした90年代。ニューヨーク・ニューヨークがオープンする前年です。噴水の上がるベラジオや、ゴンドラの浮かぶベネチアンはまだできていませんでした。しかし、ラスベガスの建設ラッシュはすでにスタートしていたのです。

▼日本のカジノ

IR（統合型リゾート）という黒船来航にも似た日本の新しい時代の幕開けの中で、宣教師として始まったスコットさんの日本との関わりは新しい展開をみせています。IRの中にカジノが含まれるからです。

日本でもカジノ法案が成立した2016年、スコットさんもネバダ大学ラスベガス校（UNLV）で、ゲーミング法・規制について学びました（法学修士）。日本にカジノができるなら、ゲーミング法で日本と関わることになると思っただけです。

「でもね、ワタシが日本語を話せるということが知られると、日本人旅行者のクリミナルケースも増えました。日本人ラスベガスにきて、リラクックス。お酒のむ。よっぱらいになつて、ドラックドライブやして、事故おこす。でも別の車の事故ではなくて、これらはね、自分の車を建物にぶつける。アングラグラウンド、パーキングで、はしらに何回も、何回も、ポーン、ポーン。車はトータル。パツ。何回もそういう仕事をしました」

「でもね、ワタシが日本語を話せるということが知られると、日本人旅行者のクリミナルケースも増えました。日本人ラスベガスにきて、リラクックス。お酒のむ。よっぱらいになつて、ドラックドライブやして、事故おこす。でも別の車の事故ではなくて、これらはね、自分の車を建物にぶつける。アングラグラウンド、パーキングで、はしらに何回も、何回も、ポーン、ポーン。車はトータル。パツ。何回もそういう仕事をしました」

「でもね、ワタシが日本語を話せるということが知られると、日本人旅行者のクリミナルケースも増えました。日本人ラスベガスにきて、リラクックス。お酒のむ。よっぱらいになつて、ドラックドライブやして、事故おこす。でも別の車の事故ではなくて、これらはね、自分の車を建物にぶつける。アングラグラウンド、パーキングで、はしらに何回も、何回も、ポーン、ポーン。車はトータル。パツ。何回もそういう仕事をしました」

「でもね、ワタシが日本語を話せるということが知られると、日本人旅行者のクリミナルケースも増えました。日本人ラスベガスにきて、リラクックス。お酒のむ。よっぱらいになつて、ドラックドライブやして、事故おこす。でも別の車の事故ではなくて、これらはね、自分の車を建物にぶつける。アングラグラウンド、パーキングで、はしらに何回も、何回も、ポーン、ポーン。車はトータル。パツ。何回もそういう仕事をしました」

▼ラスベガスを支えるプロフェッショナル

ラスベガスのゲーミング産業が、ファイアの介入やマネーロンダリングなど、犯罪の取り締まりを強化し、旅行者が安心して訪れることができる街に変わった背景に、モルモンの人たちの存在がありました。ギャンブルをしないハードワーキングなモルモンの人たちは、エンジニア、医師、弁護士、会計士、警官などの職業につき、法律を作り、ラスベガスを作ってきたのだといっています。今でもそれらのプロフェッショナルに、それぞれ4分の1くらいずつの割合でモルモンの人たちが活躍していると、スコットさんはいいます。

「知っていますか？今の時点では、日本のカジノのスペース。ホテルを作ったから、その中でカジノがどのくらいのスペースをとるのか？3パーセントです」

「知っていますか？今の時点では、日本のカジノのスペース。ホテルを作ったから、その中でカジノがどのくらいのスペースをとるのか？3パーセントです」

「知っていますか？今の時点では、日本のカジノのスペース。ホテルを作ったから、その中でカジノがどのくらいのスペースをとるのか？3パーセントです」

「知っていますか？今の時点では、日本のカジノのスペース。ホテルを作ったから、その中でカジノがどのくらいのスペースをとるのか？3パーセントです」

「知っていますか？今の時点では、日本のカジノのスペース。ホテルを作ったから、その中でカジノがどのくらいのスペースをとるのか？3パーセントです」

▼スコットさんの夢

プロフェッショナルな仕事をこなすスコットさんにとってもハードワーキングな方です。今でも毎日、日本語の勉強をされていて、学習方法として日本のドラマをよく見るといいます。最近「リコカツ」や「テラスハウス」を観ていると話していました。ラブロマンスものはわかりやすいので。結婚する前には三人の日本女性とお付き合いをされていたのだとか。

「ワタシはね、ネットフリックスみたいな、あの、ドラマのようなショーをやりたい。『国際弁護士』というタイトルで」

「ワタシはね、ネットフリックスみたいな、あの、ドラマのようなショーをやりたい。『国際弁護士』というタイトルで」

「ワタシはね、ネットフリックスみたいな、あの、ドラマのようなショーをやりたい。『国際弁護士』というタイトルで」

「ワタシはね、ネットフリックスみたいな、あの、ドラマのようなショーをやりたい。『国際弁護士』というタイトルで」

「ワタシはね、ネットフリックスみたいな、あの、ドラマのようなショーをやりたい。『国際弁護士』というタイトルで」

